

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	鎌田真理子	担当教員					

授業の概要	このゼミではこれまでゼミ活動で取り組んできた継続的な地域課題を中心テーマとして、調査・研究と、対象となる地域住民や障がい当事者、市民活動家、行政マンと交流を継続および実践的な支援活動であるコミュニティ・ソーシャルワークを実践する。このフィールドワークを通じて、コミュニティ・ソーシャル・ワーカーとして適切な判断、態度、行動を習得するとともに、必要な知識・スキルを学ぶ。またゼミ集団としてグループワークが適切に行うことができるようチーム力をつけていくことが目標である。						
到達目標	1.地域課題とはどのようなことか、対象となる地域アセスメント、関わる人々のローカル文化、地域の社会資源、家族や個人の状況などの情報・データをもとに現状を理解しニーズを説明できる。 2.対象となる課題へのアプローチを理解し概説し、応用できる。 3.活動の成果についてのエビデンスを導き出し、研究成果としてレポートにまとめることができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	ゼミメンバーとともに取り上げる今年度のテーマを選択する。演習は前半で文献・資料・データの読み込み、後半で実践編としてテーマ対象のアセスメント後に活動等の展開とリ・アセスメントを積み重ね、エビデンスをまとめ、報告書の作成や提言等を予定している。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1.テーマについての現状と課題および展望について概説できる。 2.文献や資料、データをレジュメにまとめ報告できる。	1.テーマについて自身の興味や関心に引き寄せ、現状と課題及び展望について優れたレポートとしてまとめ、優れた水準で報告できる。 2.文献や資料、データを収集・分析し、レジュメにまとめ優れた水準で報告できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○	○	○	○		40%
小テスト・授業内レポート	○				○		20%
宿題・授業外レポート	○				○		20%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○		20%

課題、評価のフィードバック	1.レジュメ、レポートなどについてその都度アドバイスを行う。 2.ディスカッションや協議におけるサポート、アドバイスを行う。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	オリエンテーション テーマの協議と基本文献の確認	前期の内容を踏まえつつ、後期の予定について確認をする。	
	第2回	文献研究①	前期からのテーマについての研究の進捗状況の確認と文献・資料の講読。	
	第3回	文献研究②	文献講読。	
	第4回	文献研究③	文献講読。	
	第5回	文献研究④	文献講読。	
	第6回	文献研究⑤	文献講読。	
	第7回	フィールドワーク準備①	前期フィールドワークを深化させ、再度調査、ヒヤリングの実施準備。	
	第8回	フィールドワーク準備②	前期フィールドワークを深化させ、再度調査、ヒヤリングの実施準備。	
	第9回	フィールドワーク準備③	前期フィールドワークを深化させ、再度調査、ヒヤリングの実施準備。	
	第10回	フィールドワーク	フィールドワークやヒヤリングの実施。	
	第11回	フィールドワーク	フィールドワークやヒヤリングの実施。	
	第12回	フィールドワークのまとめ①	ヒヤリング内容、フィールドワーク情報整理。	
	第13回	フィールドワークのまとめ②	ヒヤリング内容、フィールドワーク情報整理。	
	第14回	報告準備	報告準備のための作業	
	第15回	報告会	報告会での報告実施	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		ゼミメンバーとともに人数にもよるが、テーマを決定し、グループ活動を中心に調査・研究を進めていく。後期も前半に基礎学習として文献・論文講読をレポーターを決定し報告していく。		
授業外学習の指示		外部のイベントやシンポジウム参加などに出かけることも多々ある。行政や非営利組織活動などのニュースや新聞・専門誌などを読み込んでおくこと。 （授業外学習時間： 毎週 90 分）		

教科書	文献・資料は適時紹介をする。
参考書	参考文献や資料は適時紹介をする。
参考URLなど	
その他	

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	小池久恵	担当教員					

授業の概要	専門ゼミ1に引き続き、イギリス文化・文学を研究する演習形式の授業。＜映画化された文学作品＞を題材に、歴史、思想、習慣、文化・社会事象などさまざまな視点からイギリスについて学ぶ。4年次の卒業論文作成に向けて、「何を・どのように書くか」を意識しながら、与えられた課題に取り組むだけでなく、自ら意欲的にテーマを見出し、主体的に研究する姿勢を身につけることを目的とする。						
到達目標	1. ゼミで取り上げる作家・作品・事項について文献を収集し、知識・理解を深める。 2. 映像資料研究を通して、歴史や時代との関連を考え意見を述べることができる。 3. イギリス文学・文化に関する評論を読み、内容を要約し説明できる。 4. 課題に沿った参考資料の収集や整理をおこない、研究の成果を発表することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	できるだけたくさんの文献を読み、関連映像を視聴すること。その際メモを取り要旨(またはあらすじ)をまとめる習慣をつけること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①ゼミで取り上げる作家・作品について要点を説明できる。 ②作品の映像資料研究を通して歴史や時代との関連から意見を述べることができる。 ③イギリス文学・文化に関する文献を読み、内容を要約できる。 ④課題に関するレジュメを作成し発表することができる。	①ゼミで取り上げる作家・作品について時代や社会を映すトピックを挙げながら説明できる。 ②作品の映像資料研究から歴史や時代との関連を読み取り、作品を総合的に評価することができる。 ③イギリス文学・文化に関する文献を読み、内容を要約するとともに、自分の意見をまとめることができる。 ④課題に関する文献を読み、発表内容を十分に伝えるレジュメを作成し、成果を発表することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○		○	○		50%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		50%
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	ディスカッション時には適宜コメントや説明をし、提出課題には添削・返却及び解説をおこなう。
---------------	---

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	山本 佳子	担当教員					

授業の概要	精神障害、不登校、職場不適応等のメンタルヘルスにかかわる問題や認知機能能力と心理的問題との関係、偏見などについて、どのようなアプローチで研究が成り立つのか、文献や実験・調査を通して研究する方法を検討し、今後の研究構想をまとめる。						
到達目標	1. 自分で、今までの学習内容や生活上の経験等から、臨床心理学の課題を見つけることができる。 2. 課題解決のために、先行研究を参考にしながら研究計画を作ることが出来る。 3.共同研究を通して、研究の流れを知り、基本的な研究技法を身につける。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)							
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 自分で、今までの学習内容や生活上の経験等から、臨床心理学の課題を見つけることができる。 2. 課題解決のための研究計画の立て方を理解することができる。 3.共同研究を通して、研究の流れを知り、基本的な研究技法を身につける。	1. 自分で、今までの学習内容や生活上の経験等から、臨床心理学の課題を見つけることができる。 2. 課題解決のために、先行研究を参考にしながら研究計画を作ることが出来る。 3.共同研究を通して、研究の流れを知り、基本的な研究技法を身につける。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○					50%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加		○	○	○	○		50%

課題、評価のフィードバック	作成されたレポートは、ゼミで発表し、その場でフィードバックする。
---------------	----------------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション	グループごとにテーマを決め、研究の流れについて相談する。	
	第2回	グループ研究①	グループごとにテーマに従い、研究計画を立てる。	
	第3回	グループ研究②	グループごとに研究計画に基づき、実験・調査の準備をする。	
	第4回	グループ研究③	グループごとに研究計画に基づき、簡単な実験・調査をする。	
	第5回	グループ研究④	グループごとに研究計画に基づき、実験・調査の結果を整理する。	
	第6回	グループ研究⑤	グループごとに研究計画に基づき、実験・調査の結果を統計手法を用いて整理する。	
	第7回	グループ研究⑥	グループごとに研究計画に基づき、研究の流れと結果について発表用にまとめる。	
	第8回	グループ研究⑦	グループごとに、研究成果をPowerPointを用いて、発表する。	
	第9回	文献講読①	各自が卒業研究に関連して選んだ文献の概要を紹介し、参加者全員で討論を行う。	
	第10回	文献講読②	各自が卒業研究に関連して選んだ文献の概要を紹介し、参加者全員で討論を行う。	
	第11回	文献講読3	各自が卒業研究に関連して選んだ文献の概要を紹介し、参加者全員で討論を行う。	
	第12回	文献講読④	各自が卒業研究に関連して選んだ文献の概要を紹介し、参加者全員で討論を行う。	
	第13回	文献講読⑤	各自が卒業研究に関連して選んだ文献の概要を紹介し、参加者全員で討論を行う。	
	第14回	文献講読⑥	各自が卒業研究に関連して選んだ文献の概要を紹介し、参加者全員で討論を行う。	
	第15回	まとめ	文献購読の結果をレポートとしてまとめ、卒業研究の構想を発表する。	
	試験	試験は実施しない		
授業の進め方		前半はグループごとに自分たちで決めたテーマに従い実験・調査を行い、まとめ、発表する。後半は各自の興味関心に基づき、指示された方法で文献を検索し、先行研究を整理しながら自らのテーマを絞り込んでいく。毎回施行の具合を発表し、ディスカッションしながら進める。		
授業外学習の指示		各時間の課題に従って、調べたり、まとめたりの作業を行って授業には参加することになる。 (授業外学習時間： 毎週 60 分)		

教科書	テキストは使用しない。
参考書	特になし
参考URLなど	
その他	

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	高木竜輔	担当教員					

授業の概要	本演習では地域社会が抱える課題を析出し、その解決に向けた思考力と実践力を身につける。まず、いわき市をフィールドとし、複数回にわたるフィールドワークにより地域社会が抱える課題について発見する。その前提として、地域社会を構造的に捉える枠組みについて、文献を通じて学習するとともに、併せて、地域社会が抱える課題を析出するための方法論について学ぶ。						
到達目標	1. 地域社会が抱える課題を理解することができる。 2. 地域社会が抱える課題を析出するための方法(フィールドワーク、官庁統計の分析)を習得し、実践することができる。 3. 地域社会学の理論を習得し、それを分析対象の地域を理解するために応用することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	日頃から身の回りの生活圏について観察をおこなうこと。新聞などを通じて何が地域社会の「問題」として語られているのか把握すること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 地域社会が抱える問題について関心をもち、それについて理解することができる。 2. 地域社会を把握する方法について理解することができる。 3. 自らが生活する地域の課題について理解することができる。	1. 地域社会が抱える問題について関心をもち、それについて先行研究に位置づけながら理解することができる。 2. 地域社会学を把握する方法について理解し、それを実行することができる。 3. 自らが生活する地域の課題について理解し、その課題の解決策について提案することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
フィールドワーク	○	○	○				30%
文献講読・発表	○	○	○				40%
授業における議論への貢献度	○	○	○				20%
授業態度・授業への参加			○	○			10%

課題、評価のフィードバック	1. 文献検索やレジュメ作成・発表の際に、適宜コメントする。 2. フィールドワークの内容について、ゼミ内で互いに議論を交わし、修正してゆく。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	フィールドワークの計画	フィールドワークの対象地など、当日の計画を検討する	
	第2回	フィールドワーク(1)	フィールドワークをおこなう	
	第3回	フィールドワーク(2)	フィールドワークをおこなう	
	第4回	フィールドワークの振り返り(1)	実施したフィールドワークについて、得られた発見・知見を発表する	
	第5回	文献講読(1)	指定文献の担当部分について担当者が発表し、それを受けてメンバーで議論する	
	第6回	文献講読(2)	指定文献の担当部分について担当者が発表し、それを受けてメンバーで議論する	
	第7回	文献講読(3)	指定文献の担当部分について担当者が発表し、それを受けてメンバーで議論する	
	第8回	文献講読(4)	指定文献の担当部分について担当者が発表し、それを受けてメンバーで議論する	
	第9回	文献講読(5)	指定文献の担当部分について担当者が発表し、それを受けてメンバーで議論する	
	第10回	官庁統計の分析(1)	これまで得られた知見について、官庁統計データを用いて構造的に理解する	
	第11回	官庁統計の分析(2)	これまで得られた知見について、官庁統計データを用いて構造的に理解する	
	第12回	官庁統計の分析(3)	これまで得られた知見について、官庁統計データを用いて構造的に理解する	
	第13回	いわき地域の課題析出と解決(1)	いわき市の地域社会としての課題について、解決方法・実践を議論する	
	第14回	いわき地域の課題析出と解決(2)	いわき市の地域社会としての課題について、解決方法・実践を議論する	
	第15回	いわき地域の課題析出と解決(3)	いわき市の地域社会としての課題について、解決方法・実践を議論する	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		フィールドワークに際しては、対象地について事前の準備をしておくこと。ゼミ内での発表に先立ち、文献を読み、レジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。		
授業外学習の指示		当たり前だが、文献講読は全員が講読し、分からない所は事前に調べておくこと。また、ゼミの質疑のなかで不明だった点については調べ直しておくこと。 (授業外学習時間： 毎週 120 分)		

教科書	文献については、フィールドワークを通じて得られた知見・議論を踏まえて選択するが、主な候補作は参考文献に示しておく。
参考書	諸富徹『人口減少自体の都市』中公新書、枝廣『地元経済を創りなおす』岩波新書、矢作弘『縮小都市の挑戦』岩波新書、飯田泰之ほか『地域再生の失敗学』光文社新書、大月敏雄『町を住みこなす』岩波新書、若林幹夫『郊外の社会学』ちくま新書、木下斉『稼ぐまちが地方を変える』NHK出版新書
参考URLなど	
その他	

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	高島翠	担当教員					

授業の概要	本講義では心理学の研究に必要な、研究を立案するときに気をつけなければいけないことの理解を目指す。さらに自身の興味のあるテーマに基づいて実際に実験を行い、データの処理、発表をおこない、卒業研究に向けての知識を蓄える。						
到達目標	① 知覚・認知心理学分野における現象の理解をする ② 心理学に関する論文を読んでまとめることができる ③ 自ら興味のあるテーマを選んで実験を計画・遂行することができる						
学習のアドバイス （勉強方法、履修に必要な予備知識など）							
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
		1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①自らの興味に従って文献を選び、レジュメにまとめて発表することができる。 ②グループで実験を実施し、その内容をグループで発表することができる。	①自らの興味に従って、適切な文献を選び、レジュメにまとめて発表をし、質疑に答えることができる。 ②グループで実験を計画し、実施にあたって気をつけなければいけないことや、データの適切な分析方法を確認することができる。また、得られた実験結果について、グループでまとめて発表することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○	○	○	○			60%
授業態度・授業への参加	○		○	○	○		40%
							加点にはしないが 減点する場合がある

課題、評価のフィードバック	必要に応じてフィードバックをおこなう
---------------	--------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション	この授業の予定を確認することができる	
	第2回	心理学における研究方法の習得	文献をもとに、心理学における実験の実施に必要な知識をまとめる	
	第3回	心理学における研究方法の習得	文献をもとに、心理学における実験の実施に必要な知識をまとめる	
	第4回	実験の計画・実施	グループで実験の計画をたて、データを集め、分析をし、その内容について発表する	
	第5回	実験の計画・実施	グループで実験の計画をたて、データを集め、分析をし、その内容について発表する	
	第6回	実験の計画・実施	グループで実験の計画をたて、データを集め、分析をし、その内容について発表する	
	第7回	実験の計画・実施	グループで実験の計画をたて、データを集め、分析をし、その内容について発表する	
	第8回	実験の計画・実施	グループで実験の計画をたて、データを集め、分析をし、その内容について発表する	
	第9回	実験結果の発表	グループで実験の計画をたて、データを集め、分析をし、その内容について発表する	
	第10回	論文発表	選んだ論文をレジュメにまとめて発表し、グループでその論文対する議論に参加する。また、その論文の問題点を指摘し、問題点を解決するための新たな実験を提案する。	
	第11回	論文発表	選んだ論文をレジュメにまとめて発表し、グループでその論文対する議論に参加する。また、その論文の問題点を指摘し、問題点を解決するための新たな実験を提案する。	
	第12回	論文発表	選んだ論文をレジュメにまとめて発表し、グループでその論文対する議論に参加する。また、その論文の問題点を指摘し、問題点を解決するための新たな実験を提案する。	
	第13回	研究方法の習得	文献をもとに、心理学における実験の実施に必要な知識をまとめて自分の言葉で説明する	
	第14回	研究方法の習得	文献をもとに、心理学における実験の実施に必要な知識をまとめて自分の言葉で説明する	
	第15回	卒論テーマの選定	卒論で扱いたいテーマを選ぶ	
	試験	実施しない		
授業の進め方				
授業外学習の指示		【復習】授業での指摘を参考に、実験実施に必要な情報を集めて確認する。 （授業外学習時間： 毎週 90 分）		

教科書	使用しない
参考書	適宜紹介する
参考URLなど	
その他	

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	高橋義考	担当教員					

授業の概要	講義や実習で習得した基礎知識や専門知識と4年次における卒業研究との橋渡しになる重要な科目と位置づけ、ゼミナール形式で指導し、教員の経験を参考にしながら社会人としての人格を形成することを目的とする。						
到達目標	1. マイコンによるモーター制御について説明することができる 2. ロボットの自律制御プログラムについて説明することができる 3. シミュレーションソフトウェアで解析調査をすることができる						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	授業で分からなかった内容については、質問したり図書館で調べること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. マイコンによるモーター制御について説明することができる。 2. ロボットの自律制御プログラムについて説明することができる。 3. シミュレーションソフトウェアで解析モデルを作成できる。	1. マイコンによるセンサー・モーター制御について説明することができる。また、センサーとモーターをマイコンで制御することができる。 2. ロボットの自律制御プログラムについて説明することができる。また、センサーと連動したロボット制御プログラムを開発できる。 3. シミュレーションソフトウェアで解析モデルを作成し、メカの性能調査をすることができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
マイコンのプログラミング	○	○			○		35%
ロボット制御	○	○			○		35%
コンピュータシミュレーション	○	○			○		30%
授業態度・授業への参加			○	○			加点はしない。欠席は減点対象となる。

課題、評価のフィードバック	1. 実験や演習に関する疑問や感想などについては、次回の授業でコメントする。 2. 提出されたレポートについては、評価基準を示した上で、返却する。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	マイコンのプログラム応用1	センサーとサーボモータをマイコンで制御する方法を解説し、演習を行う。	
	第2回	マイコンのプログラム応用2	演習と質疑応答	
	第3回	マイコンのプログラム応用3	演習と質疑応答	
	第4回	マイコンのプログラム応用4	演習と質疑応答	
	第5回	マイコンのプログラム応用5	演習と質疑応答	
	第6回	マイコンのプログラム応用6	演習と質疑応答	
	第7回	マイコンのプログラム応用7	演習と質疑応答	
	第8回	ロボットのプログラム1	ロボットの機能と制御プログラムについての演習と質疑応答	
	第9回	ロボットのプログラム2	演習と質疑応答	
	第10回	ロボットのプログラム3	演習と質疑応答	
	第11回	ロボットのプログラム4	演習と質疑応答	
	第12回	ロボットのプログラム5	演習と質疑応答	
	第13回	ロボットのプログラム6	演習と質疑応答	
	第14回	ロボットのプログラム課題1	演習と質疑応答	
	第15回	ロボットのプログラム課題2	演習と質疑応答	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		マイコン端末、ロボット教材を用いて演習を行う。		
授業外学習の指示		授業で学んだ内容を整理し、まとめておくこと。 出題された課題は、授業外学習として独自に再度行い、コンピュータの各技術を身に着けること。 （授業外学習時間： 毎週 90 分）		

教科書	配付資料に従って、実習を進めてゆく。
参考書	適宜、授業内で紹介する。
参考URLなど	
その他	

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	窪田文子	担当教員					

授業の概要	本授業では、前期の「専門ゼミ1」に引き続き、ゼミ生各自が日常生活の出来事や社会問題の中から関心を持つ事象を取り上げ、それについて、臨床心理学的視点から理解し説明できるように、専門性を深めていくことを目的とする。具体的には、さまざまな研究論文を参考にして臨床心理学的立場からの知見を調べて発表し、ゼミ生相互で意見交換をする。また、ゼミ生全員で協力して調査を実施し、心理学で用いられる研究法の一つである調査法について実習を通して学習する。これらの学修を通して、卒業研究のテーマを具体化する。						
到達目標	1. 論文を読みこなして、わかりやすくまとめて説明できる。 2. 他のゼミ生の発表を批判的思考を活用して聞き、質問ができる。 3. 調査法の手順に基づいて調査を実施できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	先行研究にあたること、それらをまとめること、まとめたことを発表することそれぞれについて、十分に時間をとって準備をすること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 文献を読みこなして、ポイントをまとめることができる。 2. ゼミメンバーからの質問に答えることができる。 3. ゼミメンバーと協力してゼミ調査を作成することができる。	1. 文献を読みこなして、ポイントを的確にまとめることができる。 2. ゼミメンバーからの質問に答え、それを通して理解を深めることができる。 3. ゼミメンバーと協力して主体的にゼミ調査作成に参加することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
発表資料の作成	○				○		20%
発表の仕方		○	○		○		20%
質疑応答	○	○		○			20%
調査実習	○		○		○		20%
授業への参加度			○	○	○		20%

課題、評価のフィードバック	1.文献の発表については、適宜、コメントを行う。 2.調査の計画については、ゼミ生間のディカッションに対してフィードバックを行う。 3.結果の分析法については、適宜コメントをし、適切なものに修正していく。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	イントロダクション	説明と質疑応答	
	第2回	文献検索実習	演習と質疑応答	
	第3回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習1	演習と質疑応答	
	第4回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習2	演習と質疑応答	
	第5回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習3	演習と質疑応答	
	第6回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習4	演習と質疑応答	
	第7回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習5	演習と質疑応答	
	第8回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習6	演習と質疑応答	
	第9回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習7	演習と質疑応答	
	第10回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習8	演習と質疑応答	
	第11回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習9	演習と質疑応答	
	第12回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習10	演習と質疑応答	
	第13回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習11	演習と質疑応答	
	第14回	関心を持つテーマに関する発表と調査実習12	演習と質疑応答	
	第15回	まとめ-各自がレポートしたテーマについて、理解できた点、さらに調べたい点を明らかにする。	演習と質疑応答	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方				
授業外学習の指示		授業での発表に先立ち、文献を読みこなしてわかりやすく発表資料をまとめること。また、ゼミメンバーからの質問で不明だった点は、調べなおしておくこと。 （授業外学習時間： 毎週 120 分）		

教科書	使用しない。
参考書	適宜、授業で紹介する。
参考URLなど	
その他	

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	金世煥	担当教員					

授業の概要	様々な企業や組織のマーケティング戦略を成功事例と失敗事例を中心に学習しながら、それに基づいて自分なりの実践的なマーケティング戦略案を論理的にまとめる力を養成することを目標とする。具体的には、卒業研究の実施に向けて、文献の購読と、その内容に関するレジュメ作成等を通じて基礎的知識と技能を修得し、卒業研究の目的・研究方法の検討を行う。						
到達目標	1. マーケティング分野のデータを収集・分析し、まとめ発表することができる。 2. マーケティングの成功・失敗事例に関するデータを収集・分析し、グループディスカッションすることができる。 3. 関心あるテーマに関する研究を自分の力で進めていける研究推進力が身に付ける。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	文献購読、レジュメ作成、ならびにその発表については十分な準備が必要である。自分が発表する文献のなかで不明な点がある場合には、必ず発表前に調べておくこと。また、自分が発表担当ではない場合にも、文献を読み、質問できるように準備しておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 文献を読み、文章の構造を理解した上で、レジュメを作成することができる。 2. 作成したレジュメにもとづいて、指定した時間内で発表できる。 3. 発表内容に関する質問に対して、答えを文献内から見つけ出すことができる。 4. ゼミ活動に参加し、自分の役割を担うことができる。	1. 文献を批判的に読み込み、自分の意見や疑問点についても言及しているレジュメを作成できる。 2. 聴衆の理解度を確認し、柔軟に内容を調整しながら発表できる。 3. 発表内容に関する質問に対して、文献の論点にもとづきながら自分の考えを整理して答えることができる。 4. 自発的に不明な点について調べたり、発言したりするなど、積極的にゼミ活動に参加することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加		○	○	○			15%
レジュメ作成	○	○			○		35%
発表(プレゼンテーション)	○	○			○		35%
質疑応答		○	○	○			15%
出席			○	○			加点はしないが、 減点となることがある。

課題、評価のフィードバック	1. 文献検索やレジュメ作成・発表の際に、適宜コメントする。 2. グループでの調査内容について、ゼミ内で互いに議論を交わし、修正してゆく。 3. 研究対象や研究方法について、適宜コメントする。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	イントロダクション	説明と質疑応答	
	第2回	文献の購読・発表1	演習と質疑応答	
	第3回	文献の購読・発表2	演習と質疑応答	
	第4回	文献の購読・発表3	演習と質疑応答	
	第5回	文献の購読・発表4	演習と質疑応答	
	第6回	文献の購読・発表5	演習と質疑応答	
	第7回	グループ研究のテーマ検討1	演習と質疑応答	
	第8回	グループ研究のテーマ検討2	演習と質疑応答	
	第9回	グループ研究のテーマと目的決定	演習と質疑応答	
	第10回	研究方法の検討1	演習と質疑応答	
	第11回	研究方法の検討2	演習と質疑応答	
	第12回	調査実施1	演習と質疑応答	
	第13回	調査実施2	演習と質疑応答	
	第14回	調査結果の整理・分析1	演習と質疑応答	
	第15回	調査結果の整理・分析2	演習と質疑応答	
	試験			
授業の進め方				
授業外学習の指示		ゼミ内での発表に先立ち、文献を読み、レジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。また、ゼミの質疑のなかで不明だった点については調べ直しておくこと (授業外学習時間： 毎週 120 分)		

教科書	適宜、演習内で紹介する。
参考書	適宜、演習内で紹介する。
参考URLなど	特になし。
その他	この演習は、文献調査・発表やグループ実験・調査などを通して、卒業研究に必要とされる基礎的知識と技能の修得を目的とする。欠席はゼミ活動に支障をきたすため、必ず出席すること。やむを得ない事情で欠席する際は事前に担当教員に連絡すること。

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	玉懸 元	担当教員					

授業の概要	このゼミでは、次のようなことが研究できる。日本語とはどんな言語か／日本語は現在どのように変わりつつあるか／日本語を外国人にうまく教えるにはどうしたらよいか。また、効果的な日本語表現の技法を身に付けたい人、表現の幅を広げたい人があれば、その希望にも応える。 専門ゼミ2は、専門ゼミ1に続き、受講生が発表者となってプレゼンテーションの練習をすることが重要な目的である。発表テーマは教員が指定する。主として身近な日本語に関する問題をテーマとする予定である(授業計画の欄に予定のテーマを挙げておく)。		
到達目標	(1) 研究発表(特にプレゼンテーションすなわち口頭発表)の手法について説明できる。 (2) (1)の手法に基づき、研究発表を行うことができ、その中に独自の研究結果が含まれている。		
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	「日本語教育文法」「日本語学習アドバイジング」「日本語教育法1」「日本語教育法2」を履修することが望ましい。		
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】		
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。	
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。	
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。	
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。	
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。	

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
(1) 研究発表(特にプレゼンテーションすなわち口頭発表)の手法について説明できる。 (2) (1)の手法に基づき、研究発表を行うことができる。	(1) 研究発表(特にプレゼンテーションすなわち口頭発表)の手法について説明できる。 (2) (1)の手法に基づき、研究発表を行うことができ、その中に独自の研究結果が含まれている。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		60%
宿題・授業外レポート	○	○			○		20%
授業態度・授業への参加		○	○	○			20%

課題、評価のフィードバック	原則として毎時間、授業の終わりに、当日の授業内容に関連する課題を提出してもらう。授業後、提出された課題から、クラス全体で共有しておくことが有益と考えられるものを選出する。翌週(原則)の授業で、選出しておいた課題を適宜プロジェクター等も活用しながらクラス全体に紹介し、教員のコメントを加える。以上をもって課題に対するフィードバックとする。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	ガイダンスを行う。	
	第2回	プレゼンテーション練習(1) 予定テーマ: 言語の特質	プレゼンテーション練習を行う。	
	第3回	プレゼンテーション練習(2) 予定テーマ: 日本語の音声・音韻(用語)	プレゼンテーション練習を行う。	
	第4回	プレゼンテーション練習(3) 予定テーマ: 日本語の音声・音韻(母音)	プレゼンテーション練習を行う。	
	第5回	プレゼンテーション練習(4) 予定テーマ: 日本語の音声・音韻(子音)	プレゼンテーション練習を行う。	
	第6回	プレゼンテーション練習(5) 予定テーマ: 日本語の音声・音韻(アクセント)	プレゼンテーション練習を行う。	
	第7回	プレゼンテーション練習(6) 予定テーマ: 日本語の文字(漢字)	プレゼンテーション練習を行う。	
	第8回	プレゼンテーション練習(7) 予定テーマ: 日本語の文字(仮名ほか)	プレゼンテーション練習を行う。	
	第9回	プレゼンテーション練習(8) 予定テーマ: 日本語の語彙(用語)	プレゼンテーション練習を行う。	
	第10回	プレゼンテーション練習(9) 予定テーマ: 日本語の語彙(語種)	プレゼンテーション練習を行う。	
	第11回	プレゼンテーション練習(10) 予定テーマ: 日本語の語彙(位相)	プレゼンテーション練習を行う。	
	第12回	プレゼンテーション練習(11) 予定テーマ: 日本語の文法(学校文法)	プレゼンテーション練習を行う。	
	第13回	プレゼンテーション練習(12) 予定テーマ: 日本語の文法(学校文法批判)	プレゼンテーション練習を行う。	
	第14回	プレゼンテーション練習(13) 予定テーマ: 日本語の方言	プレゼンテーション練習を行う。	
	第15回	プレゼンテーション練習(14) 予定テーマ: 日本語の起源	プレゼンテーション練習を行う。	
	試験	定期試験は行わない。		
授業の進め方		演習形式を基本とする。		
授業外学習の指示		参考書を活用しながら、各回の授業内容について予習・復習を行うこと。 (授業外学習時間: 毎週 180 分)		

教科書	適宜資料を配付する。
参考書	陣内正敬(1998)『日本語の現在 揺れる言葉の正体を探る』アルク その他、適宜授業中に指示する。
参考URLなど	適宜授業中に指示する。
その他	

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	久呉高之	担当教員	久呉高之				

授業の概要	本演習は、「思考の冒険と謎解き」をテーマとして、根本的な事柄を「考える」ことを目標とする。哲学的問題から日常的問題まで、われわれの思考を駆り立てる諸問題について、トコトン考えつめてゆく。考える材料として知識は重要だが、考えなければ分からない、あるいはむしろ、いくら考えてもなかなか分からないような問題（謎）を皆で見つけ、それについて皆であれこれと、楽しく話し合う。						
到達目標	①卒論のテーマ候補として複数の論題を掲げ、議論の見通しを立てることができる。 ②卒論のテーマを選定し、議論の枠組みを明示することができる。						
学習のアドバイス （勉強方法、履修に必要な予備知識など）	常日頃から他のゼミ生や友人と議論すること。哲学的概念が問題になるときには、参考書として掲げておいた哲学事典で調べること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①卒論のテーマ候補として複数の論題を掲げ、議論の見通しのポイントを見定めることができる。 ②卒論のテーマを選定し、議論の枠組みを論理展開として明示することができる。	①卒論のテーマ候補として複数の論題を掲げ、議論の見通しをレジュメによって示すことができる。 ②卒論のテーマを選定し、議論の枠組みを、質疑応答にたえる程度に明示することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
レジュメ作成	○	○	○		○		30%
プレゼン	○	○	○	○	○	○	30%
質疑応答	○	○	○	○	○	○	30%
授業態度・授業への参加			○	○	○	○	10%
出席			○	○			加点はしないが、減点 となることがある

課題、評価のフィードバック	1. レジュメの作成・発表のさいに、適宜コメントする。 2. 発表の内容について、ゼミ内で互いに議論を交わし、修正していく。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	フレームワーク・プレゼン 1	卒業論文の大枠をなす論理展開についてプレゼンする。	
	第2回	フレームワーク・プレゼン 2	卒業論文の大枠をなす論理展開についてプレゼンする。	
	第3回	フレームワーク・プレゼン 3	卒業論文の大枠をなす論理展開についてプレゼンする。	
	第4回	フレームワーク・プレゼン 4	卒業論文の大枠をなす論理展開についてプレゼンする。	
	第5回	フレームワーク・プレゼン 5	卒業論文の大枠をなす論理展開についてプレゼンする。	
	第6回	プロット・プレゼン 1	卒業論文の大枠をなす論理展開について、A4一枚程度のレジュメに即してプレゼンする。	
	第7回	プロット・プレゼン 2	卒業論文の大枠をなす論理展開について、A4一枚程度のレジュメに即してプレゼンする。	
	第8回	プロット・プレゼン 3	卒業論文の大枠をなす論理展開について、A4一枚程度のレジュメに即してプレゼンする。	
	第9回	プロット・プレゼン 4	卒業論文の大枠をなす論理展開について、A4一枚程度のレジュメに即してプレゼンする。	
	第10回	プロット・プレゼン 5	卒業論文の大枠をなす論理展開について、A4一枚程度のレジュメに即してプレゼンする。	
	第11回	プロット・プレゼン 6	卒業論文の大枠をなす論理展開について、A4一枚程度のレジュメに即してプレゼンする。	
	第12回	プロット・プレゼン 7	卒業論文の大枠をなす論理展開について、A4一枚程度のレジュメに即してプレゼンする。	
	第13回	プロット・プレゼン 8	卒業論文の大枠をなす論理展開について、A4一枚程度のレジュメに即してプレゼンする。	
	第14回	プロット・プレゼン 9	卒業論文の大枠をなす論理展開について、A4一枚程度のレジュメに即してプレゼンする。	
	第15回	プロット・プレゼン 10	卒業論文の大枠をなす論理展開について、A4一枚程度のレジュメに即してプレゼンする。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		原則として学生の発表(プレゼンテーション、質疑応答)を中心に進める。		
授業外学習の指示		議論の内容について不明な点は必ず参考書で確認するか教員に質問すること。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	配付プリントをテキストとして使用する。
参考書	『岩波 哲学・思想事典』(本学図書館蔵)
参考URLなど	なし
その他	なし

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	裴鍾民	担当教員					

授業の概要	現代の企業活動に必須となっているITを理解し、それに基づいた企業のマーケティング活動を学習しながら、実践的なITマーケティング戦略が考えられる力を養成することを目標とする。参考文献の学習(理論的な知識)だけではなく、様々な企業や組織の成功事例と失敗事例(現場知識)を中心に学習することで、即戦力のあるマーケティング戦略をまとめることを目指す。最終的には、卒業研究の実施に向けて、文献の購読又は予約の作成等を通じて基礎的知識と技能を修得し、卒業研究の目的・研究方法の検討を行う。						
到達目標	① 自ら意義のあるテーマを選定し、論理的にまとめることができる。 ② 特定の事例又は社会現象をマーケティングの観点から分析し、まとめ発表することができる。 ③ テーマに関するデータを収集及び分析し、議論(グループディスカッション)することができる。 ④ 関心あるテーマに関する研究を自分の力で進めていける研究推進力が身に付ける。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	自らテーマに関する資料(文献及び事例)を収集し、文書としてまとめる必要がある。 資料に関する疑問が生じる場合には、その点も詳しく調べ整理すること。作成した文書に関して、他人からの質問を予測し答えられる準備しておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
① 問題意識を明確にし、課題として整理できる。 ② 文献著者の論理を理解した上で、指定量以内に要約することができる。 ③ 要約に関する自らの意見を論理的にまとめることができる。 ④ ②と③の内容をして時間以内に発表することができる。	① 問題に関して自分の意見を論理的にまとめることができる。 ② 他人に自分の意見を効率よく伝えることができる。 ③ 他人からの意見を批判的に受容し、自分の意見を調節することができる。 ④ 問題意識又は意見の表明、議論、文書の整理など、ゼミ活動に積極的に参加することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加		○	○	○			15%
レジュメ作成	○	○			○		35%
発表(プレゼンテーション)	○	○			○		35%
質疑応答		○	○	○			15%
出席			○	○			加点はしないが、減点となることがある。

課題、評価のフィードバック	1. 文献検索やレジュメ作成・発表の際に、適宜コメントする。 2. グループでの調査内容について、ゼミ内で互いに議論を交わし、修正してゆく。 3. 研究対象や研究方法について、適宜コメントする。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	イントロダクション	説明と質疑応答	
	第2回	文献の購読・発表1	演習と質疑応答	
	第3回	文献の購読・発表2	演習と質疑応答	
	第4回	文献の購読・発表3	演習と質疑応答	
	第5回	文献の購読・発表4	演習と質疑応答	
	第6回	文献の購読・発表5	演習と質疑応答	
	第7回	グループ研究のテーマ検討1	演習と質疑応答	
	第8回	グループ研究のテーマ検討2	演習と質疑応答	
	第9回	グループ研究のテーマと目的決定	演習と質疑応答	
	第10回	研究方法の検討1	演習と質疑応答	
	第11回	研究方法の検討2	演習と質疑応答	
	第12回	調査実施1	演習と質疑応答	
	第13回	調査実施2	演習と質疑応答	
	第14回	調査結果の整理・分析1	演習と質疑応答	
	第15回	調査結果の整理・分析2	演習と質疑応答	
	試験	定期試験は行わない。		
授業の進め方		演習形式を基本とする。		
授業外学習の指示		ゼミ内での発表に先立ち、文献を読み、レジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。また、ゼミの質疑のなかで不明だった点については調べ直しておくこと (授業外学習時間： 毎週 120 分)		

教科書	適宜、演習内で紹介する。
参考書	適宜、演習内で紹介する。
参考URLなど	特になし。
その他	この演習は、文献調査・発表やグループ実験・調査などを通して、卒業研究に必要とされる基礎的知識と技能の修得を目的とする。欠席はゼミ活動に支障をきたすため、必ず出席すること。やむを得ない事情で欠席する際は事前に担当教員に連絡すること。

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	和足憲明	担当教員					

授業の概要	【目的】①社会科学の思考方法を身につける。 ②勉強のやり方を身につける。 ③質の高い卒業論文を書きあげる。 【概要】①テキストの輪読(担当者を決めてレジュメに基づいて報告する)。 ②各自の関心テーマの報告。 (i)興味のあるテーマの文献を2・3冊選んで要約し、自分の意見をつけて報告する。 (ii)関心のあるテーマについて、問い、答え、根拠の大枠を報告する。 (iii)卒業論文について、上記の問い、答え、根拠を踏まえて、論文の構想を報告する。						
到達目標	①入門テキストを用いて輪読を進める。その上で、各自のテーマと問いを早く確定させる。 ②各自の関心テーマについて、問い「なぜ～なのか」、答え「～だからである」、根拠「事実関係」を簡潔に報告する。 ③卒業論文を執筆する。まず、『論文の教室』を輪読する。次に、各自の報告と議論を通じて論文を仕上げる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	【勉強方法】1. 報告に向けて、入念に準備をする。報告者ではない場合は、当日の報告者の今までの報告資料に目を通す。 2. 報告して気が付いた点、勉強になった点、他者の意見などを、自分なりにまとめる。 3. 次の報告に向けて、草稿をブラッシュアップする。 【事前に履修しておくことが望ましい科目】政治学入門、地域公共政策の基礎、政治学、地域行政論、公法演習、政治学演習 【履修する上で求められる知識】中学・高校で学んだ公民の知識、中学・高校で学んだ政治経済の知識						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. ゼミの時間に視聴したDVD、輪読した本の要点を理解している。 2. 研究テーマの決定、論文執筆に必要な文献リストの作成、研究計画の立案ができる。 3. 参考文献やデータを取得し、論文の草稿となるレジュメを作成できる。 4. 授業内での検討、議論をもとに、適宜論文の草稿を修正できる。 5. ゼミで与えられた役割を果たすことができる。	1. ゼミの時間に視聴したDVD、輪読した本の要点を理解し、論文執筆に必要なことを実践できる。 2. 研究テーマの決定、論文執筆に必要な文献リストの作成、研究計画の立案が、具体的かつ実現可能な段階まで達している。 3. 妥当性・信頼性の高いデータや参考文献を取得し、分析ができる。 4. 報告の際に出た質問に対して、説得力のある回答ができる。また議論、検討した内容を反映して、論文の草稿を適宜修正・改善できる。 5. ゼミで与えられた役割をしっかりとこなし、その上で他者の報告にも有益なコメントをすることができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		50%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○		50%

課題、評価のフィードバック	①文献報告と論文構想の報告に対して議論、検討を行い、改善点を指摘する。 ②報告や論文の草稿を添削し、返却する。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンスと状況報告	専門ゼミ2(後期)の全体の流れを説明する。 夏季休暇中の論文の進捗状況を報告し、教員よりアドバイスをを行う。	
	第2回	論文構想の報告	問い「なぜ～なのか」、答え「～だからである」、根拠「事実関係」を明確にした現時点での論文の草稿を報告する。報告にもとづいて検討、議論を行う。	
	第3回	『論文の書き方マニュアル』輪読(1)	『論文の教室』の該当箇所を輪読し、要点を整理する。 要点をもとに、論文の草稿を修正・改善する。	
	第4回	『論文の書き方マニュアル』輪読(2)	『論文の教室』の該当箇所を輪読し、要点を整理する。 要点をもとに、論文の草稿を修正・改善する。	
	第5回	『論文の書き方マニュアル』輪読(3)	『論文の教室』の該当箇所を輪読し、要点を整理する。 要点をもとに、論文の草稿を修正・改善する。	
	第6回	『論文の書き方マニュアル』輪読(4)	『論文の教室』の該当箇所を輪読し、要点を整理する。 要点をもとに、論文の草稿を修正・改善する。	
	第7回	論文のテーマに関する映像視聴(1)	各自の論文テーマに関する映像を視聴し、映像から得た気づき、論文に活かせる点等を検討、議論する。	
	第8回	文献リストと論文構想の報告(1)	問い「なぜ～なのか」、答え「～だからである」、根拠「事実関係」を明確にした論文構想を文献リストとともに報告する。 各自の報告について検討、議論をして、修正が必要な部分を整理する。	
	第9回	文献リストと論文構想の報告(2)	問い「なぜ～なのか」、答え「～だからである」、根拠「事実関係」を明確にした論文構想を文献リストとともに報告する。 各自の報告について検討、議論をして、修正が必要な部分を整理する。	
	第10回	論文のテーマに関する映像視聴(2)	各自の論文テーマに関する映像を視聴し、映像から得た気づき、論文に活かせる点等を検討、議論する。	
	第11回	各自のテーマに関する文献報告(1)	各自の関心テーマについての文献を読み、その内容についてレジュメにまとめ、報告する。 各自の報告について検討、議論をして、修正が必要な部分を整理する。	
	第12回	各自のテーマに関する文献報告(2)	各自の関心テーマについての文献を読み、その内容についてレジュメにまとめ、報告する。 各自の報告について検討、議論をして、修正が必要な部分を整理する。	
	第13回	論文構想の報告の打ち合わせ	各自の論文の構想について、その概要について報告する。 各自の報告について検討、議論をして、修正が必要な部分を整理する。	
	第14回	論文構想の報告(1)	各自の関心テーマについて、問い「なぜ～なのか」、答え「～だからである」、根拠「事実関係」を報告する。各自の報告について検討、議論をして、修正が必要な部分を整理する。	
	第15回	論文構想の報告(2)	各自の関心テーマについて、問い「なぜ～なのか」、答え「～だからである」、根拠「事実関係」を報告する。各自の報告について検討、議論をして、修正が必要な部分を整理する。	
	試験	定期テストは実施しない。		
授業の進め方		報告者による質疑応答を中心に、報告に関して議論、検討をする。		
授業外学習の指示		1. 論文作成にあたり、先行研究に関する文献を読み込む。(毎週120分程度) 2. 論文作成の準備を計画的に行う。(毎週60分程度) 3. 論文を計画的に執筆し、授業内における検討、議論に基づき適宜論文を修正する。(毎週120分程度) (授業外学習時間: 毎週 300 分)		

教科書	必要に応じて、適宜指示する。
参考書	必要に応じて、適宜指示する。
参考URLなど	なし。
その他	

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	名取洋典	担当教員					

授業の概要	専門ゼミ1では、心理学とその関連領域から、各自の関心に基づいて研究文献を選択し、発表と討論等を行った。専門ゼミ2では、その知見を生かし、各自が設定したテーマに基づいて実際にデータを収集・分析してしてレポートを作成する。レポートの作成までの過程においては、討論も行い、互いの計画や結果の解釈について意見交換を行う。これらの過程を通して、心理学における論理展開、研究方法、統計処理の実際、結果の解釈と考察の仕方等について理解を深めることを目的とする。						
到達目標	1 計画に従ってデータの収集を行うことができる 2 収集したデータを適切な方法で分析することができる 3 結果に従ってレポートを作成することができる						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	日常的な出来事、社会的な出来事に関心を持ち、ゼミ内で扱った問題がどのように日常生活とつながるのかを考え続けることが大切です。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1 データの収集を行うことができる 2 収集したデータを分析することができる 3 レポートを作成することができる	1 計画に従って適切な抽出方法による・十分なサンプルサイズのデータの収集を行うことができる 2 収集したデータを、適切な方法で分析し、分析の結果に従ってさらに必要な分析を加えることができる。 3 結果に従ってレポートを作成し、日常的な事項に関連づけて考察することができる

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
授業時の発表	○	○	○	○	○		40%
討論への参加度 (manab@上も含む)	○	○	○	○	○		40%
課題レポート	○	○	○	○	○		20%

課題、評価のフィードバック	1 ゼミにおける討論の中で、準備されたレジュメについてのコメントをする 2 ゼミにおける討論の中で、今後の課題についてコメントする
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	研究テーマの選択1	演習と質疑応答	
	第2回	研究テーマの選択2	演習と質疑応答	
	第3回	研究計画の検討1	演習と質疑応答	
	第4回	研究計画の検討2	演習と質疑応答	
	第5回	研究計画の検討3	演習と質疑応答	
	第6回	データの収集1	演習・実習と質疑応答	
	第7回	データの収集2	演習・実習と質疑応答	
	第8回	データの収集3	演習・実習と質疑応答	
	第9回	データの収集4	演習・実習と質疑応答	
	第10回	データの分析1	演習・実習と質疑応答	
	第11回	データの分析2	演習・実習と質疑応答	
	第12回	データの分析3	演習・実習と質疑応答	
	第13回	レポート作成1	演習・実習と質疑応答	
	第14回	レポート作成2	演習・実習と質疑応答	
	第15回	レポート作成3	演習・実習と質疑応答	
	試験	定期試験は実施しない。		
授業の進め方		発表の順番は各自で回しながら、演習および実習形式で行う。		
授業外学習の指示		ゼミ内での発表に先立ち、文献を読み、レジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。また、ゼミの質疑のなかで不明だった点については調べ直しておくこと。 (授業外学習時間： 毎週 120 分)		

教科書	指定しない。
参考書	適宜、紹介する。
参考URLなど	
その他	manab@IMUを使った課題提出を求める。また、資料配布を行う。授業外の討論を掲示板で行う。

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	末次晃	担当教員					

授業の概要	専門ゼミ1に引き続き、心理学系の研究論文を読む。自分の関心・興味によって発表する論文を選ぶが、その過程で、自分の関心・興味を明確にしながら、卒業論文のテーマを絞り込んでいくこと、また卒業論文発表会での口頭発表方式に習熟することを目標とする。一人につき、3回の発表を予定している。						
到達目標	1. 専門の論文が検索できる。 2. 専門の論文を読みこなすことができる。 3. 読んだ論文内容を他者に的確に伝えることができる。 4. 質問に対し適切に答えることができる。 5. 他者の発表に対して、質問を行うことができる。 6. 卒業研究のテーマを決定することができる。						
学習のアドバイス （勉強方法、履修に必要な予備知識など）	ゼミ専用のノートを用意し、論文検索のキーワード、検索結果、思いついたアイディア、調べた事柄など、日付と一緒にゼミに関連する情報をすべて記録する習慣をつけること。こうすれば、あらためて情報を検索するときなどの助けになるし、必要な情報の損失を最小限にとどめることができる。また、メモをしたときには意識していなかったアイディアの重要性に気づくこともあるなど、役に立つことが多い。						
ディプロマポリシーとの関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 論文を読み、内容を理解することができる。 2. 論文内容を簡潔にまとめ、レジュメを作成することができる。 3. 発表に対して、質問をすることができる。 4. 質問に回答することができる。 5. 卒業論文のテーマに関連するキーワードを4個程度、挙げるすることができる。	1. 論文を批判的に読み、内容を理解した上で、その論文の問題点をも指摘することができる。 2. 論文内容を簡潔にまとめ、自分の意見も入れながら、レジュメを作成することができる。 また、他の文献にもあたり、当該論文に記述されていない情報を付け加えることができる。 3. 発表に対して、的を得た質問をすることができる。 4. 質問に対して、当該論文以外の情報を加えて、質問者が理解・納得できる適切な回答ができる。 5. 卒業論文のタイトルを決めることができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
レジュメ	○	○			○		25%
発表	○	○	○	○	○		20%
質問に対する回答	○	○		○	○		20%
発表に対する質問	○	○	○	○	○		25%
卒業研究のテーマ	○	○	○		○		10%
出席							加点はなし。欠席は減点することがある。

課題、評価のフィードバック	1. 検索した論文に対し、選択のポイントをアドバイスする。 2. 作成したレジュメについて、改善点をアドバイスする。 3. 発表や質疑応答の方法について改善点をアドバイスする。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	発表準備1－1	テーマを選定し、そのテーマに関連する論文を検索し、複数の発表論文候補を選ぶ。	
	第2回	発表準備1－2	選んだ複数の論文を比較し、ひとつに絞る。当該論文を読み、不明な点があれば、辞書等に当たって調べつつ、内容を把握する。	
	第3回	発表準備1－3	論文内容を要約し、レジュメにまとめ、具体的な聴き手を想定し、口頭発表の仕方を工夫し、分かりやすく説明できるようになる。	
	第4回	口頭発表1	論文をレジュメを使って口頭で発表し、その後、質疑応答を行う。	
	第5回	発表準備2－1	テーマを選定し、そのテーマに関連する論文を検索し、複数の発表論文候補を選ぶ。	
	第6回	発表準備2－2	選んだ複数の論文を比較し、ひとつに絞る。当該論文を読み、不明な点があれば、辞書等に当たって調べつつ、内容を把握する。	
	第7回	発表準備2－3	論文内容を要約し、レジュメにまとめ、具体的な聴き手を想定し、口頭発表の仕方を工夫し、分かりやすく説明できるようになる。	
	第8回	発表2	論文をレジュメを使って口頭で発表し、その後、質疑応答を行う。	
	第9回	卒論テーマの絞り込み1	現在、興味関心のあるテーマをゼミ内で発表し、ゼミメンバーでディスカッションをしながら、テーマを絞り込む。	
	第10回	卒論テーマの絞り込み2	現在、興味関心のあるテーマをゼミ内で発表し、ゼミメンバーでディスカッションをしながら、テーマを絞り込む。	
	第11回	卒論テーマの絞り込み3	現在、興味関心のあるテーマをゼミ内で発表し、ゼミメンバーでディスカッションをしながら、テーマを絞り込む。	
	第12回	卒論テーマの絞り込み4	現在、興味関心のあるテーマをゼミ内で発表し、ゼミメンバーでディスカッションをしながら、テーマを絞り込む。	
	第13回	研究計画書素案作成1	研究計画書作成にあたっての注意事項を説明し、必要項目をリストアップしながら、アウトラインを作成する。	
	第14回	研究計画書素案作成2	アウトラインをもとに、研究計画書を作成する。	
	第15回	研究計画書素案作成3	ゼミメンバーの意見を聞き、研究計画書を改善する。	
	試験			
授業の進め方				
授業外学習の指示		ゼミ内での発表準備(論文検索、選択、読み込み、まとめ、レジュメの作成)および分からない事柄を調べておく。 (授業外学習時間： 毎週 120 分)		

教科書	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
参考書	適宜、紹介する。
参考URLなど	とくになし。
その他	欠席をすると進捗に支障をきたすことがあるので、やむを得ない事情がある場合以外は欠席しないこと。 情報のやりとりや議論にmanaba@IMUを利用する。

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	田中美和	担当教員					

授業の概要	本演習では「キャリア」の研究を行う。自らの興味関心に沿って先行研究を検討し、インタビュー調査やデータ分析を行い、発表する。後半は卒業研究に向けた個人のテーマ設定と調査方法を行う。						
到達目標	1. キャリアに対する関心を高め、自分の持つ問題意識を明らかにする。 2. 問題意識を明らかにするための調査手法を検討し、調査を実施する。 3. 卒業研究テーマを検討し、調査の具体的な手法や時期を計画する。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	社会のさまざまな事象と人のキャリアを関連付けて考える習慣を身に付けておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
・自分の関心に沿って、先行研究の文献検索ができる。 ・調査分析の手法を理解する。 ・調査結果をまとめることができる。 ・研究テーマを見つけることができる。	・自分の関心に沿って先行研究を検索し、研究内容を説明することができる。 ・調査分析の手法を理解し、調査内容によって使い分けることができる。 ・調査結果から、新たな知見を見出すことができる。 ・研究テーマを見つけ、仮説や具体的な調査手法を構想することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○		○		10%
宿題・授業外レポート	○	○	○		○		30%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○			30%
発表(プレゼンテーション)	○	○	○		○		20%
ディスカッションへの参加	○	○	○	○	○		10%

課題、評価のフィードバック	レジュメ作成、発表時に適宜実施する。 発表内容やゼミ内での発言内容については議論のなかで意見交換する。 授業内容に関する質問には随時対応する。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	オリエンテーション	自己紹介を行い、自分の関心事について発表する。ゼミの進め方について説明を行う。	
	第2回	調査・分析①	個人のテーマに沿った調査計画を立てる	
	第3回	調査・分析②	個人のテーマに沿った調査計画を立てる	
	第4回	調査・分析③	計画に基づき、調査を実施する	
	第5回	調査・分析④	計画に基づき、調査を実施する	
	第6回	調査・分析⑤	計画に基づき、調査を実施する	
	第7回	調査・分析⑥	得られた結果を分析し、知見をまとめる。	
	第8回	調査・分析⑦	得られた結果を分析し、知見をまとめる。	
	第9回	調査・分析⑧	得られた結果を分析し、知見をまとめる。	
	第10回	調査結果報告①	調査結果について報告を行い、内容について討議する。	
	第11回	調査結果報告②	調査結果について報告を行い、内容について討議する。	
	第12回	卒業研究構想①	卒業研究テーマの決定に向け、関心事や問い、具体的調査方法やスケジュールをまとめる。	
	第13回	卒業研究構想②	卒業研究テーマの決定に向け、関心事や問い、具体的調査方法やスケジュールをまとめる。	
	第14回	卒業研究構想③	卒業研究テーマの決定に向け、関心事や問い、具体的調査方法やスケジュールをまとめる。	
	第15回	卒業研究構想④	卒業研究テーマの決定に向け、関心事や問い、具体的調査方法やスケジュールをまとめる。	
	試験			
授業の進め方				
授業外学習の指示		文献の講読やレジュメの作成、発表準備等を行う。 （授業外学習時間： 毎週 120 分）		

教科書	授業時に指示する
参考書	授業時に指示する
参考URLなど	
その他	

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	中尾剛	担当教員					

授業の概要	卒業研究にとりかかる準備として必要な基礎技術の修得することを目指す。具体的には、ネットショップサイトを題材に、Webの基本的な技術を習得し、4年進級時に卒業研究を速やかかつ円滑に進められる力を養うことを目的とする。						
到達目標	1. スクリプト言語PHPについて説明できる。 2. ファイルの取り扱いについて説明できる。 3. 入力フォームの使い方を説明できる。 4. メールの自動配信の方法を説明できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	講義内で提示されるキーワードは必ず書き出し、その意味を説明できるようにする。定義だけではなく、活用例、危険性についての考え方も重要であることを理解しておく。講義で示されるまとめのスライドなどを自分の言葉で説明できるようになることを一つの目標として学習に取り組む。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
		1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
① スクリプト言語PHPについて説明できる。 ② ファイルの取り扱いについて説明できる。 ③ 入力フォームの使い方を説明できる。 ④ メールの自動配信の方法を説明できる。	① スクリプト言語PHPについて、関数の取り扱いまで説明できる。 ② ファイルの読み込み、書き出しの手順を説明できる。 ③ 入力フォームの種類と使い方、最適な選び方を説明できる。 ④ メールの自動配信の適正な使用方法、メール送信の成功の確認方法について説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○				○		20%
授業態度・授業への参加			○	○			10%
マイコン製作	○	○	○	○	○		20%
プログラム	○	○	○	○	○		20%
作品発表	○	○			○		30%

課題、評価のフィードバック	実習で作成したWebサイトや外部機器は相互評価を行う。
---------------	-----------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	後期ガイダンス	後期の演習の進め方、学すべき目標と課題について理解し、個別・グループ学習のスケジュールなど説明する	
	第2回	PHPの基礎1	スクリプト言語PHPについて説明する	
	第3回	PHPの基礎2	スクリプト言語PHPについて説明する	
	第4回	PHPの基礎3	スクリプト言語PHPについて説明する	
	第5回	ネットショップの流れ	ネットショップを構成するWebページと処理の流れについて説明する	
	第6回	商品紹介ページの作成	ネットショップの商品を紹介するページを作成する	
	第7回	受注ページの作成	商品の受注ページおよび代金計算のページを作成する	
	第8回	送付先入力ページの作成	商品を送付するために必要な情報を入力するページを作成する	
	第9回	確認ページの作成	受注確認のページを作成する	
	第10回	メール送信システムの作成	受注した内容を自動的にメールで送信するページを作成する	
	第11回	卒業研究紹介	4年生が行っている卒業研究の紹介を行う	
	第12回	ページデザインの検討	各ページデザインや見易さなどを検討する	
	第13回	処理の関数化	各ページで同じ処理を行っている場所を関数化する	
	第14回	相互評価	作成したショッピングサイトを相互評価する	
	第15回	卒業研究に向けて	専門ゼミを終えて、卒業研究の内容および4年になるまで間に準備することを話し合う。	
	試験	実施しない		
授業の進め方		基本的に説明と実習を行う。毎回最後に進捗を確認する。		
授業外学習の指示		manab@IMUで提示する資料を中心に講義の内容を復習する。不明な点は必ず教科書で確認するか教員に質問すること。余裕があれば、次回の講義に対応する資料の該当箇所を読み、概要を理解しておく。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	なし
参考書	講義中に紹介する
参考URLなど	講義中に紹介する
その他	

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	大島典子	担当教員					

授業の概要	専門ゼミ1に引き続き、各自の心理学的興味関心事項を研究として成立できるように、文献研究や討議にて、学習していく。卒業研究執筆にむけてテーマをしぼり、研究計画をしあげることを目的とする。						
到達目標	1. 専門ゼミ1でまとめた各自の研究テーマについて、研究計画としてまとめ、発表することができる。 2. 専門ゼミ2の前半に行った研究計画発表において課題とされた部分を補うことを目的に文献を収集し、まとめて、発表し、研究の実施にむけて計画の精度を高める。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	先行研究をしっかりと読み込むこと。 それをまとめて発表する過程で、自分の卒業研究をイメージしながら、卒業研究とは何をすることなのかを理解するように努めること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 自分の興味に関連する専攻研究の文献を読み、必要なポイントを理解し、まとめることができる 2. レジューメを作成し、発表することが出来る 3. おおよその卒業研究のテーマをみつけることができる	1. 自分の興味に関連する専攻研究の文献を批判的な方法を用いて読み、必要なポイントを理解し、まとめることができる 2. レジューメを作成し、わかりやすく発表することが出来る 3. 卒業研究のテーマをみつけることができる

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		50%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○		50%

課題、評価のフィードバック	
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	オリエンテーション	専門ゼミ2の課題	
	第2回	研究計画の構想作成と検討①	発表と質疑応答	
	第3回	研究計画の構想作成と検討②	発表と質疑応答	
	第4回	研究計画の構想作成と検討③	発表と質疑応答	
	第5回	研究計画の構想作成と検討④	発表と質疑応答	
	第6回	研究計画の構想作成と検討⑤	発表と質疑応答	
	第7回	文献紹介と討議①	発表と質疑応答	
	第8回	文献紹介と討議②	発表と質疑応答	
	第9回	文献紹介と討議③	発表と質疑応答	
	第10回	文献紹介と討議④	発表と質疑応答	
	第11回	文献紹介と討議⑤	発表と質疑応答	
	第12回	文献紹介と討議⑥	発表と質疑応答	
	第13回	文献紹介と討議⑦	発表と質疑応答	
	第14回	文献紹介と討議⑧	発表と質疑応答	
	第15回	文献紹介と討議⑨	発表と質疑応答	
	試験	実施しない		
授業の進め方				
授業外学習の指示		発表に関する準備(資料検索、資料作成) (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	使用しない。プリント配付。
参考書	適宜紹介する。
参考URLなど	
その他	

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	大原貴弘	担当教員					

授業の概要	人間の心理・行動についての学問的理解を深め、心理学研究を行う上で必要となる基礎的知識と技能の修得を目的とする。具体的には、卒業研究の実施に向けて、研究テーマの決定、関連文献の講読、その内容についてのレジュメ作成、グループ研究の実施、ならびに卒業研究の目的・方法の検討を行う。						
到達目標	1. 心理学の研究文献を検索し、その内容をレジュメにまとめ、発表することができる。 2. 心理学の研究手法や統計手法を説明・実践し、グループ活動ができる。 3. 研究について自分の意見をまとめ、ゼミ内で議論ができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	文献講読、レジュメ作成、ならびに発表については、十分な事前準備が必要である。特に自分が発表する文献内で不明な点がある場合には必ず発表前に調べておくこと。						
ディプロマポリシーとの関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 文献を読み、文章の構造を理解した上で、レジュメを作成できる。 2. 作成したレジュメに基づいて、指定した時間内で発表できる。 3. 聴衆からの質問に対する答えを、文献内から見つけ出すことができる。 4. 心理学の研究手法や統計手法について説明できる。 5. ゼミ活動へ興味をもち、自分の役割を担うことができる。	1. 文献を批判的に読み込み、自分の意見や疑問も盛り込んだレジュメを作成できる。 2. 聴衆の理解度を確認し、柔軟に内容を調整しながら発表できる。 3. 聴衆からの質問に対して、自分の考えをまとめて答えることができる。 4. 心理学の研究手法や統計手法を応用的に実践できる。 5. ゼミ活動へ興味をもち、不明な点について自発的に調べたり、考えたりできる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		40%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		40%
授業態度・授業への参加			○	○			20%
出席			○	○			加点はしないが、減点となることがある。

課題、評価のフィードバック	1. 文献検索やレジュメ作成・発表の際に、適宜コメントする。 2. グループ実験・調査の内容について、ゼミ内で互いに議論を交わし、修正してゆく。 3. 分析結果の手法・解釈について、適宜コメントをし、より妥当性の高い結論を導いてゆく。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	ガイダンス・自己紹介	説明と質疑応答	
	第2回	研究テーマの検討 1	演習と質疑応答	
	第3回	研究テーマの検討 2	演習と質疑応答	
	第4回	文献の講読・発表 1（1）	演習と質疑応答	
	第5回	文献の講読・発表 1（2）	演習と質疑応答	
	第6回	文献の講読・発表 1（3）	演習と質疑応答	
	第7回	文献の講読・発表 1（4）	演習と質疑応答	
	第8回	研究目的の決定 1	演習と質疑応答	
	第9回	研究目的の決定 2	演習と質疑応答	
	第10回	文献の講読・発表 2（1）	演習、実習と質疑応答	
	第11回	文献の講読・発表 2（2）	演習、実習と質疑応答	
	第12回	文献の講読・発表 2（3）	演習、実習と質疑応答	
	第13回	文献の講読・発表 2（4）	演習、実習と質疑応答	
	第14回	研究方法の決定 1	演習、実習と質疑応答	
	第15回	研究目的の決定 2	演習、実習と質疑応答	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		授業内容についての説明の後、教員の指示に従って、作業を進める。あるいは、まとめてきた課題について発表した後、質疑応答・議論を行う。次回までの課題を出すこともある。		
授業外学習の指示		ゼミ内での発表に先立ち、文献を読み、レジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。また、ゼミの質疑のなかで不明だった点については調べ直しておくこと。 (授業外学習時間： 毎週 120 分)		

教科書	適宜、演習内で紹介する。
参考書	適宜、演習内で紹介する。
参考URLなど	特になし。
その他	この演習は、文献調査・発表やグループ実験・調査などを通して、卒業研究に必要とされる基礎能力の習得を目的とする。欠席するとゼミ活動に支障をきたすので、できる限り出席すること。

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	西村康平	担当教員					

授業の概要	「専門ゼミ1」に引き続き、文献講読、文献紹介、ディスカッション、個人プレゼンテーション等を通し、自然言語を対象とした研究を行う上で必要となる基礎的知識、技能の獲得を目指す。また、各自の卒業研究における研究テーマの方向性に関して検討する。						
到達目標	1. 卒業研究の方向性を決定する。 2. 卒業研究、卒論執筆に必要な知識、技能を得る。 3. 習得した知識・技能を用いてプレゼンテーション、レポート執筆を行う。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	文献講読、文献紹介、個人プレゼンテーション、レポート執筆などは卒業研究に関連付けて取り組むこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 取り上げた文献の内容について理解し、自身の意見を述べることができる。 2. 卒業研究の方向性について、大まかに示すことができる。 3. 個人プレゼンテーション、レポート執筆を適切に行うことができる。	1. 取り上げた文献の内容について理解し、批判的に議論することができる。 2. 卒業研究の方向性について、今後に必要な取り組みを明確に示すことができる。 3. 個人プレゼンテーション、レポート執筆を、卒業研究につながる形で適切に行うことができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
授業への参加の姿勢		○	○	○		○	40%
文献紹介／個人プレゼンテーション	○	○	○	○	○	○	30%
期末レポート	○	○	○		○	○	30%

課題、評価のフィードバック	レポートなどは採点し、コメントを記入した上で返却する。
---------------	-----------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	ゼミの概要、進め方等について説明する。	
	第2回	研究の方法(1)	学術研究の方法論について理解する。	テキストを使用
	第3回	研究の方法(2)	学術研究の方法論について理解する。	テキストを使用
	第4回	研究の方法(3)	学術研究の方法論について理解する。	テキストを使用
	第5回	文献講読(1)	言語研究に関する文献を読み、内容についてディスカッションを行う。	配布プリントを使用
	第6回	文献講読(2)	言語研究に関する文献を読み、内容についてディスカッションを行う。	配布プリントを使用
	第7回	文献講読(3)	言語研究に関する文献を読み、内容についてディスカッションを行う。	配布プリントを使用
	第8回	文献講読(4)	言語研究に関する文献を読み、内容についてディスカッションを行う。	配布プリントを使用
	第9回	文献講読(5)	言語研究に関する文献を読み、内容についてディスカッションを行う。	配布プリントを使用
	第10回	文献講読(6)	言語研究に関する文献を読み、内容についてディスカッションを行う。	配布プリントを使用
	第11回	文献紹介(1)	各ゼミ生の研究に関係する文献を探し、紹介する。内容について、出席者全員でディスカッションを行う。	
	第12回	文献紹介(2)	各ゼミ生の研究に関係する文献を探し、紹介する。内容について、出席者全員でディスカッションを行う。	
	第13回	個人プレゼンテーション(1)	ゼミ生自身の研究に関するプレゼンテーションを行う。	
	第14回	個人プレゼンテーション(2)	ゼミ生自身の研究に関するプレゼンテーションを行う。	
	第15回	まとめ	ゼミで学んだ内容を確認する。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		「文献講読」、「文献紹介」および「プレゼンテーション」ではゼミ出席者に担当を割り振る。担当者は準備を行っておくこと。		
授業外学習の指示		【予習】テキスト、文献の内容を把握しておく。(60分) 【復習】ゼミであつかった内容について、理解を確認しておく。(60分) (授業外学習時間: 毎週 120 分)		

教科書	1.『新版 論文の教室』 戸田山和久 著、NHKブックス、ISBN: 978-4-14-091194-5 2. 配布プリント
参考書	
参考URLなど	
その他	ゼミに関する連絡事項はManab@IMUに掲載する。随時確認すること。

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	菅野昌史	担当教員					

授業の概要	この演習では、専門ゼミ1同様、法社会学に関連する研究論文を読み、内容を簡潔にまとめたレジュメを作成し、それをもとに口頭で発表し、全体で議論するという活動を繰り返すことで、上記の各種技能の更なる向上を目指していく。						
到達目標	1. 自らが選択した文献を読み、その内容をレジュメにまとめることができる。 2. レジュメをもとに発表を行い、議論することができる。 3. ゼミ活動に興味をもち、ゼミ内での役割を担うことができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	文献講読、レジュメ作成、発表には十分な準備が必要である。文献は繰り返し熟読するとともに、不明な点については他の文献等も参照して調べておくこと。自分なりに調べ、考えても分からなかった点を明確にしたうえで、ゼミに臨み、ゼミ内での議論を通じて、疑問の解消に努めること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 文献を適切に選択し、その内容をレジュメにまとめることができる。 2. レジュメをもとに発表を行い、ゼミ内で議論することができる。 3. 発表及び議論を通じて、自分の考えを説明することができる。 4. ゼミ活動に興味をもち、自分の役割を担うことができる。	1. 自ら選択した文献を批判的に読み、その内容をレジュメにまとめることができる。 2. レジュメをもとに発表を行い、ゼミ内での議論を促進することができる。 3. 発表及び議論を通じて、自分の考えを深め、それを説明することができる。 4. ゼミ活動に興味をもち、自分の役割をより主体的に担うことができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
レジュメ作成	○	○			○		
発表	○	○			○		
質疑応答		○	○	○			
授業態度・授業への参加		○	○	○			
出席			○	○			加点はしないが、減点となることがある。

課題、評価のフィードバック	1. レジュメの作成・発表の準備段階から、適宜コメントし、よりよい発表になるよう導いていく。 2. 発表・質疑応答の際に適宜コメントし、ゼミ内の議論がより深まるように導いていく。 3. 授業に関する質問や相談には随時応じる。 4. 最終評価に関しては学生からの要請があれば、その根拠を示し、説明する。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	ガイダンス	説明と質疑応答	
	第2回	ゼミテーマに関する文献の講読①	発表と質疑応答	
	第3回	ゼミテーマに関する文献の講読②	発表と質疑応答	
	第4回	ゼミテーマに関する文献の講読③	発表と質疑応答	
	第5回	担当者による発表と質疑応答①	発表と質疑応答	
	第6回	担当者による発表と質疑応答②	発表と質疑応答	
	第7回	担当者による発表と質疑応答③	発表と質疑応答	
	第8回	担当者による発表と質疑応答④	発表と質疑応答	
	第9回	担当者による発表と質疑応答⑤	発表と質疑応答	
	第10回	担当者による発表と質疑応答⑥	発表と質疑応答	
	第11回	これまでの報告についての再検討①	発表と質疑応答	
	第12回	これまでの報告についての再検討②	発表と質疑応答	
	第13回	これまでの報告についての再検討③	発表と質疑応答	
	第14回	卒業論文作成に向けた今後の課題の検討①	発表と質疑応答	
	第15回	卒業論文作成に向けた今後の課題の検討②	発表と質疑応答	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		基本的にゼミ内での議論を中心に進める。		
授業外学習の指示		ゼミ内での発表に先立ち、文献の熟読、レジユメの作成、発表の準備(疑問点の明確化、等)をしておく。ゼミ内での質疑応答で疑問が残った点については、文献等でさらに調べる。 (授業外学習時間： 毎週 180 分)		

教科書	授業の中で適宜指示する。
参考書	授業の中で適宜指示する。
参考URLなど	授業の中で適宜指示する。
その他	

科目名	専門ゼミ2			ナンバリング	RLA261	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	松本麻子	担当教員	松本麻子				

授業の概要	本演習では、日本文学研究を行うために必要な研究方法ならびに結果の分析方法を修得することを目標とする。具体的には、文献研究や文献講読、その内容についてのレジュメ作成、調査方法、問題提起の方法、ならびにゼミメンバー間でのグループディスカッションを行う。これらの活動を通じて、文学研究を行う上で必要とされる基礎的な能力を身につけ、今後の研究を円滑に進められるようにすることを目的とする。						
到達目標	1. 文学研究に必要な研究方法について説明できる。 2. 文学研究に必要な研究方法を実践できる。 3. 文学研究に必要な調査方法について説明できる。 4. 文学研究に必要な調査を実践できる。 5. 卒業論文作成に向けて研究対象を決定し、研究のための準備をすることができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	履修に必要な知識は特にないが、学びたい作品について調べ内容を把握しておくこと。勉強方法については授業で指示するが、自分でかなりの時間をかけて調査し発表するための資料を作成する必要がある。後期は、卒論のために積極的に文献を読み、勉強することが望ましい。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
・文学研究に必要な研究方法について理解できる。 ・文学研究に必要な研究方法を実践し、資料を作成できる。 ・文学研究に必要な調査方法について説明できる。 ・文学研究に必要な調査を助言をもとに実践できる。 ・卒業論文作成に向けて研究対象を決定し、研究のための準備をすることができる。	・文学研究に必要な研究方法について理解でき、それを説明できる。 ・文学研究に必要な研究方法を実践し、論理的で明快な資料を作成できる。 ・文学研究に必要な調査方法について説明でき、また実践できる。 ・文学研究に必要な調査を実践し、論を立てることができる。 ・卒業論文作成に向けて研究対象を決定し、研究のための準備を行い、目次を作成することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○		40%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		20%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○			40%

課題、評価のフィードバック	1. レジュメ作成・発表の際に、適宜コメントし指導する。 2. 発表内容について、ゼミ内で互いに議論を交わし、修正していく。 3. 問題提起・調査の方法については、適宜コメントし、より妥当性の高い結論に到達するよう導いていく。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	前期の復習と後期の準備	前期の課題レポートの返却と、後期に読む作品について決定する。	
	第2回	担当教員の発表①	担当教員が、今年度読む作品について解説をする。	
	第3回	担当教員の発表②	担当教員が、今年度読む作品について発表する。	
	第4回	発表演習①	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第5回	発表演習②	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第6回	発表演習③	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第7回	発表演習④	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第8回	発表演習⑤	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第9回	発表演習⑥	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第10回	発表演習⑦	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第11回	発表演習⑧	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第12回	発表演習⑨	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第13回	発表演習⑩	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第14回	発表演習⑪	担当者による発表と参加者による質疑応答。	
	第15回	まとめ	年間を通じて作品を輪読し、どのようなことが問題となったのかを考える。各自、卒業論文作成のための計画を立てる。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		作品を理解し、発表の方法・資料の作成の仕方・調査方法についてを、繰り返し実践しながら身につける。担当者は発表の際に、何が問題となるのか明確にし、参加者は予習を行った上で積極的な質疑応答をするように求める。		
授業外学習の指示		学習のアドバイスの項目と同様。また、発表の準備に関しては、発表時間の2倍以上の時間をかけて準備すること。 （授業外学習時間： 毎週 180 分以上）		

教科書	指定しない。
参考書	授業中に指示する。
参考URLなど	インターネットは使用しない。
その他	

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	後期授業の進め方や課題テキスト・作品・参考文献について確認する。	
	第2回	作品の分析(1)	ゼミで取り上げる作品について調べ、概要を述べる。	
	第3回	作品の分析(2)	作品のテーマを探り、時代や社会を映すトピックを列挙して説明する。	
	第4回	作品の分析(3)	関連資料を整理し、作品を総合的に評価する。	
	第5回	作品の背景の検討(1)	作品分析により、歴史や時代との関連から意見を述べる。	
	第6回	作品の背景の検討(2)	作品分析により、社会状況や制度・慣習との関連から意見を述べる。	
	第7回	作品の背景の検討(3)	作品分析により、文化的背景をふまえ意見を述べる。	
	第8回	批評の方法(1)	イギリス文学に関する評論を読み、内容を要約し説明する。	
	第9回	批評の方法(2)	イギリス文化に関する批評を読み、関連事項を調べてまとめる。	
	第10回	批評の方法(3)	映像作品とテキストとの表現の特徴を比較し説明する。	
	第11回	課題の発表(1)	課題のテーマ別に参考資料の収集や整理を行い、要点を説明する。	
	第12回	課題の発表(2)	課題のテーマ別に参考資料の収集や整理を行い、要点を説明する。	
	第13回	課題の発表(3)	レジュメを作成し、課題に取り組んだ成果を発表する。	
	第14回	課題の発表(4)	レジュメを作成し、課題に取り組んだ成果を発表する。	
	第15回	まとめのペーパー作成と発表	専門ゼミのまとめとして、自ら選んだテーマでペーパーを作成し、レジュメや資料をもとに発表する。	
	試験	実施しない。		
授業の進め方		作品(映像)研究、文献研究、発表、ディスカッション、レポート提出が主なゼミ活動となる。		
授業外学習の指示		課題に従い文献・資料を読み、レジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。 ゼミ内容の疑問点や不明な点は明確にし、課題の修正点は調べ直しておくこと。 (授業外学習時間: 毎週 120 分)		

教科書	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。
参考URLなど	適宜紹介する。
その他	専門ゼミは文献・映像研究などを通して、卒業研究に必要な研究態度や手法の習得を目的とするため、毎回必ず出席し積極的に参加すること。